

IV 外国語科におけるパフォーマンス評価とルーブリック

単元・年間を通して「聞くこと」「話すこと（やりとり）」「話すこと（発表）」「読むこと」「書くこと」について、全ての観点から総合的に評価することが大切です。知識を「知っている」だけでなく、「使える」力までつけたいと考えると、評価方法は「知識を測るペーパーテスト」だけでは不十分であり、知識やスキルを状況において使うパフォーマンスを評価することが必要となります。

「パフォーマンス評価」





知識やスキルを使いこなす（活用・応用・統合する）ことを求めるような評価方法。論説文やレポート、展示物といった完成作品（プロダクト）や、スピーチやプレゼンテーション、協同での問題解決、実験の実施といった実演（狭義のパフォーマンス）を評価する。（「答申」（2016）補足資料）

「ルーブリック」

成功の度合いを示す数レベル程度の尺度とそれぞれのレベルに対応するパフォーマンスの特徴を示した記述語（評価規準）からなる評価基準表。（「答申」（2016）補足資料）

実践事例（奥州市立江刺第一中学校 2 学年）

（岩手県立岩泉高等学校 1 学年）

<p><b>CAN-DO リスト「話すこと」</b> 与えられたテーマについて、既習事項を用いて相手に事実や自分の考え、気持ち等を適切に伝えることができる。</p>	<p><b>CAN-DO リスト「話すこと」</b> マッピングで記入したキーワードを用い、その概要を 1 分間程度、英語で相手に伝えることができる。</p>
<p><b>PROGRAM 5 の単元の学習課題</b> 相手意識をもって、どのように国の魅力を伝えるか。</p>	<p><b>Lesson 7 Pride of Japan の単元の学習課題</b> 世界でもトップクラスの技術力を誇る日本の町工場は、どんな技術を持っているのか。</p>
<p><b>パフォーマンス課題【プレゼンテーション】</b> おすすめの国の魅力について、その国の文化や特徴に自分の考えや気持ち付け加えて、グループで 5 分間プレゼンテーションしている。</p> 	<p><b>パフォーマンス課題【ミニ・プレゼンテーション】</b> 小さな会社の、全国や世界で認められている優れた製品を見つけて、自らの意見や理由を示して適切に表現することができる。</p> 
<p><b>グループワーク</b></p> 	<p><b>グループワーク</b></p> 

- 本研究で取り組みました国語、社会・地歴公民、数学、理科、外国語（英語）の研究成果をガイドブックとしてまとめておりますので、ぜひご覧ください。
- 本研究の報告書（総論）と各教科のガイドブック及び単元構想シートは、下記の岩手県立総合教育センターのWebページに掲載しております。  
■これまでの研究一覧 <http://www1.iwate-ed.jp/kenkyu/h09~/index.html>

研究主題 **資質・能力の「三つの柱」を総合的に育む 授業の在り方に関する研究（2 年次）**

－主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して－

【2 年研究】

**中学校・高等学校 外国語科**

【研究担当者】 中野 誉史 寒河江 研哉  
【この研究に対する問い合わせ先】  
TEL 0198-27-2735 FAX 0198-27-3562  
E-mail kyouka-r@center.iwate-ed.jp

I はじめに

新学習指導要領では、子供たちの現状と課題、グローバル化による社会の多様性や急速な情報化、技術革新による人間生活の質的な変化等、変化の激しいこの時代を生きていく子供たちの成長を支える教育の在り方を踏まえつつ、人間が学ぶことの本質的な意義や強みを改めて捉え直し、一人一人の学びを後押しできるように、これまでの改訂の中心であった「何を学ぶか」という指導内容の見直しに留まらず、「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」までを見据えて改善を図る方向性が示されました。

また、「何ができるようになるか」という観点から整理された育成を目指す資質・能力（以下「三つの柱」という。）をバランスよく育むためには、「何を学ぶか」という指導内容等の見直しとともに、それらを「どのように学ぶか」という子供たちの具体的な学びの姿について「アクティブ・ラーニング」の視点からの見直しが必要不可欠なものとしています。

II 外国語科におけるこれからの授業改善

現行の学習指導要領では、言語活動の充実を各教科等を貫く改善の視点として掲げており、外国語科においても言語活動の充実が図られてきました。

しかし、言語活動が行われているとしても英語を使って何ができるようになるかという視点が欠如していたり、「学習到達目標（CAN-DOリスト）」を設定したとしてもそこに至るまでの道筋が見えなかったりといった課題も見られました。また、授業づくりという面においても、単位時間毎の学びが繋がっていないというように、単元等のまとまりを見通した学びの実現における課題が見られました。

外国語の学習においては、語彙や文法等の個別の知識がどれだけ身に付いたかということが最終的な目標ではなく、生徒の学びの過程全体を通じて、知識・技能が、実際のコミュニケーションにおいて活用され、思考・判断・表現することを繰り返すことを通じて獲得され、学習内容の理解が深まるなど、資質・能力が相互に関係し合いながら育成されることが必要です。

そこで、本研究では、資質・能力の「三つの柱」を総合的に育むことを目指し、「どのように学ぶか」という点から、『主体的・対話的で深い学び』の実現の手立て、「資質・能力を育む学習過程」などについて考えをまとめました。また、「何が身に付いたか」という点から、「学習評価の充実」についても考えをまとめました。

更に、外国語教育において育成を目指す資質・能力の向上を図るために、単元等のまとまりを見通した学びの実現のために具体的にどのような単元の指導構成が必要なのか、単元というまとまりの中の学習活動において、育成を目指す「資質・能力」をどう設定し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた手立てをどのように講じていくのが大切なポイントとなります。

そこで、単元の指導をデザインしていく道筋を示すことを目指して、次ページの「単元構想シート」を開発しました。

### Ⅲ 資質・能力を育成する単元構想の実現を目指した「単元構想シート」の活用

資質・能力を育成する単元構想の実現に向けて、本研究では、以下に示す「単元構想シート」を活用して、単元を構想しました。

#### 【単元構想シート】

単元を通して育成を目指す資質・能力を明確に設定した単元構想の実現

#### 1 単元の目標

「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力等」について新学習指導要領の「目標」「内容」を基にして、単元の内容に合わせて単元で育成する資質・能力を明確に記述します。

＜開発にあたっての留意点＞

- ・構成項目を絞り、日常において作成しやすいものとする
- ・学習指導要領等に即し、育成を目指す資質・能力を捉えられること
- ・作成を通し、単元の本質となるねらいに迫ることができること
- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善のポイントを押さえることができること
- ・各教科統一項目・統一様式とすることで、校内において共通の視点で単元構想のポイントを考えていくことができること

外国語科単元構想シート ※単元や題材など内容や時間のまとまりで作成する			
単元名 「My Project4 スキット作りを楽しもう」	対象学年 生徒数 担当者		
1 単元の目標（何ができるようになるか）※ 評価規準は、単元の目標に準拠する。			
知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力等	
相手の話したことにに対して、相づちをうったり気持ちを伝えたり質問したりすることができる。	相手に配慮しながら、相づちをうったり気持ちを伝えたり質問したりしながら対話をつなげることができる。	相手に配慮しながら、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。	
2 単元で働かせる「見方・考え方」			
○英語で表現し伝え合うため、 ○自分がした質問に対する外国人の答えを、 ○日本に来た外国人の気持ちに配慮しながら受け止め、 ○相づちをうったり気持ちを伝えたり質問を加えたりして対話をふくらませていくこと。			
3 単元における「学習課題」と「期待する姿（ゴール像）」			
【単元の学習課題】 コミュニケーションを豊かにするうえで大切なことは何か。			
【期待する姿】 インタビューアとして、相手のことを考えながら、相づちをうったり気持ちを伝えたり質問をしたりしながら 60秒対話をつなげている。			

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて（外国語科における授業改善の視点）		
主体的な学び <small>（学習への興味・関心を高める場面、学習の見直しを持つ場面、学習を振り返りにつなげる場面の設定）</small>	対話的な学び <small>（自己の思考を広げ深める場面の設定）</small>	深い学び <small>（見方・考え方を働かせながら思考・判断・表現する場面の設定）</small>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題を明確に示す。</li> <li>・振り返りの場を設定する。</li> <li>・実際のコミュニケーションに近づけた場を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアやグループ内で情報や意見、考えを伝え合う活動を取り入れる。</li> <li>・教員と生徒または生徒同士によるやりとりをする場面を増やす。</li> <li>・やりとりに必要な双方向によるコミュニケーション能力を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的・場面・状況を明確にした、実際のコミュニケーション場面に近づけた言語活動を設定する。</li> <li>・身につけた知識・技能を活用し、アウトプットする統合的な言語活動を行う。</li> </ul>

ガイドブック p. 8 で示した「『主体的・対話的で深い学び』の実現に必要な手立て」を参考にして、単元の目標達成に向けた指導の手立てを記述します。

【補足説明】・授業改善の視点の括弧内の内容は、校内統一の視点として活用します。  
・生徒の実態を鑑み取捨選択しながら記入することを基本とします。また、これをベースに、単元の指導計画を組み立てていきます。  
・項目の番号を外し独立させているのは、汎用的な内容となることを想定したためです。単元の内容を鑑み具体的に構想し記入していくことも可能です。

#### 2 単元で働かせる「見方・考え方」

\*ガイドブック pp.9-10 の「外国語によるコミュニケーションにおける『見方・考え方』の構造」を参考にして、「見方・考え方」を単元レベルで設定し、記述することで単元構想につながります。

#### 3 単元における「学習課題」と「期待する姿」

ガイドブック pp.13-14 を参考にして、ゴールの姿となる到達目標から逆算して考える「バックワード・デザイン」を意識した単元構想につなげるよう、最終到達目標をCAN-DOリストとのつながりをもたせながら設定します。

「期待する姿」はガイドブック pp.25-26 の「外国語科におけるパフォーマンス課題とルーブリック」を参考にして、「評価3(B)」に該当する、最終的に目指す生徒の具体的な姿を記述します。

\*ガイドブック：本研究取組んだ研究成果をガイドブックとしてまとめたものです。岩手県立総合教育センターの Web ページからダウンロードすることができます。

#### 4 単元の指導と評価の計画

4 単元の指導と評価の計画（全4時間）			
時間	学習過程	【評価の観点】 【評価規準】 【評価方法】	学習課題(■)と主な学習活動(◎、○) ※学習活動を複数記述した場合は、重点(◎)、それ以外(○) <small>※評価の観点(主体的な学び/対話的な学び/深い学び)の実現を目指すための場面</small>
1	【最終到達目標の理解・把握】  【単元のゴール達成のための内容理解】	【主体的に学習に取り組む態度】 ビデオを見たりルーブリックを確認することにより、最終的に目指す姿をイメージしようとしている。  【知識・技能】 既習事項を生かしながら、相手の話す内容について相づちをうったり質問したり気持ちを伝えたりして対話を広げる方法を身に付けている。  【発表、観察、ワークシートへの記述】	【学習課題】 ■目指す姿をイメージしながら、対話のつなぎ方を理解できる。  【主な学習活動】 ○コミュニケーションを豊かにするうえで大切なことは何か、学習前の自分の考えをもつ。 ◎ビデオを見たりルーブリックを確認したりすることにより、最終的に目指す姿をイメージする。 ○短い対話をいくつか使い、ペアで対話するなかで、友達への反応の仕方を観察し、自分に取り入れる。  主体的な学び   対話的な学び   深い学び
2	【単元のゴール達成に向けての練習】	【思考力・判断力・表現力等】 ペアやグループなどで友達の反応の仕方を観察し、良い部分を取り入れながら、話題の中心となる語から対話をつなげている。  【発表、観察、ワークシートへの記述】	【学習課題】 ■対話のバリエーションを増やすことができる。  【主な学習活動】 ○対話をつなぐために大切なことを確認し、ペアで対話をする。 ○インタビュー役と外国人役を決め、それぞれ列を作って向かい合った者同士で交互に対話する。 ◎ペアで対話するなかで、友達の反応の仕方を観察し、自分に取り入れる。  主体的な学び   対話的な学び   深い学び
3	【単元のゴール達成に向けての練習】	【思考力・判断力・表現力等】 仲間とともに考え工夫しながら、よりよい対話のつなぎ方を身に付けることができる。  【発表、観察、ワークシートへの記述】	【学習課題】 ■仲間とともに考え工夫しながら、よりよい対話のつなぎ方を習得する。  【主な学習活動】 ○ペアで協力してインタビューに挑戦し、よりよい対話のつなぎ方を習得する。 ◎グループ内での気づきを大切に、インタビューの向上に取り組む。  主体的な学び   対話的な学び   深い学び
4	【単元のゴールとなるアウトプット活動】  【単元の振り返り】	【思考力・判断力・表現力等】 インタビューアとして、相手の話す内容をほぼ理解したうえで、相づちをうったり気持ちを伝えたり質問したりしながら 60 秒対話をつなげている。  【主体的に学習に取り組む態度】 相手に配慮しながら、粘り強くコミュニケーションを図ろうとしている。  【発表、観察、ワークシートへの記述】	【学習課題】 ■花巻空港にいる外国人に英語でインタビューすることができる。  【主な学習活動】 ◎街頭インタビューに挑戦する。 ○自分の発表とクラスメイトの発表を通して、よりよい対話のつなぎ方についての理解を深める。 ○これまでの学習を振り返る。  主体的な学び   対話的な学び   深い学び

#### 学習過程

ガイドブック p.12 で示した「学習過程(例)」を参考に学習のプロセスを記述します。

#### 評価の観点・評価規準・評価方法

各単位時間における、評価の観点、評価規準、評価方法を記述します。

#### 「主体的・対話的で深い学び」の実現に必要な手立て

- 【興味・関心を持たせるための手立て】→目的・場面・状況の明確な設定/社会等との関わりを重視した題材設定
- 【共通しを持って粘り強く取り組ませるための手立て】→目指す姿の明確な設定/学習到達目標の共有
- 【自らの学びを振り返らせ、次の学習につなげさせるための手立て】→振り返り場面の設定/学びを共有する場面の設定
- 【情報や考えなどを伝え合わせる言語活動の改善・充実のための手立て】→やりとりする場面の設定/学習形態の工夫
- 【他者を尊重しながら対話が図られるような言語活動を行う学習場面の充実のための手立て】→相手意識・聞く側の態度等
- 【資質・能力の3つの柱を総合的に活用・発揮させるための手立て】→既習内容を関連付けさせて課題を解決していく意識づけ/最終的なアウトプットを目指した言語活動の設定/実際のコミュニケーション場面に近づけた言語活動の設定等

各単位時間の学習課題と主な学習活動

各単位時間における、学習課題を示すとともに、その時間で行う主な学習活動を記述します。

「主な学習活動(◎)」が3つの学びの視点のうちいずれの実現につながるものか位置付けます。軽重の違い(色の濃淡で示しています)はあるにせよ、各単位時間内の学びの過程にも、3つの学びはいずれも位置付けています。